



彩花新聞

Monthly SAIKA Newspaper

160号

2020年10月1日

秋の収穫キャンペーン

青く澄んだ空、風に揺れる秋桜・・・季節は秋です。
 部屋中に風を通して、片づけるには良い季節がやってきました。
 彩花は、10月から「秋の収穫キャンペーン」と、銘打って水回り清掃のおすすをめています。
 今までお付き合い頂いたお客様にお声掛けをして、お役に立ちたいと思っております。
 お客様は、人生を通して一緒に人生を生きていける、人生を共有している大切な友達。
 大切な親友のことを想うように仕事をしていきたいと願っております。
 まだまだ続くこの状況の中、頑張っていきたいものです。



転ばぬ先の杖

大型台風10号が発生ということで、气象台から異例の一週間前からの予報がたびたび、放送されていました。
 今までになかった「特別警戒宣言」が出され初めてのことで驚く。インターネットやテレビ情報がとても早いのにもびっくりします。
 1週間前、台風9号が通過して被害が出たこともあり、それより大きいとか史上最強で今までにない気圧との予報でした。
 气象台予報が、昔と違って最近では狂いが少ないこともあり、早めの準備で、ホームセンターやスーパーなどの駐車場には車が
 いっぱいです。昔では考えられない、情報の凄さにはビックリです。
 そして、更にビックリしたことは、月曜日の朝に九州北部に上陸するとの予報で金曜日くらいから会社はもちろん、交通機関や
 とにかくコンビニまで休みの報道が流れる。
 そして、避難勧告では、かなりの方達が避難されたみたいです。コロナの三密もあって色々な
 問題があったようですが・・・。今の世の中が、情報社会になっていると改めて痛感しました。
 台風は、予想する程の勢いはなかったが、前もって準備することが、命を守り・被害を少なく
 すると思えました。特にコロナの問題から、みんなが情報に対して敏感になっているようです。
 しかし、この世の中で生き残るには、仕事でも情報のキャッチをしていかないといけないと
 つくづく思いました。
 情報のおかげで大きな被害はなく、まさに「用心に越したことはない」ということです。



人が伝えてくれる

知り合いの保険屋さんからLINEを頂く。
 その内容は、ある医院に行ったら「彩花新聞」があったと
 いうことです。私もその医院には3日前に掃除の件で相
 談を受けて訪問していました。
 事故にあわれて、毎日の掃除をするのが大変ということ
 で、月に一回「家事手伝い」をお願いできないかというご
 相談でした。その前に、医院と裏の自宅の外壁とハウス
 クリーニングをして貰って事故の気持ちを振り払いたいと
 の事です。「彩花新聞」があったことで、共通の話題で話
 が盛り上がったみたいです。奥様が私のことを褒めてく
 れたみたいで嬉しいことです・・・。
 この件を通じて思ったことは、人の為にお役に立つ仕事
 をしていたら人から評価され繋がっていくのだなと思いま
 した。自分から自慢しなくても仕事
 を通じて伝えられる行動の大事さを
 味わいました。
 これからもお客様に喜んで頂ける
 仕事をしていきます。
 昔から、祖母が言っていました。
 「ちゃんとしていたら人は見ている」と。
 神様が応援してくれるまさにこのこと
 です。



おもてなしの心の学び

25年間お付き合いさせて頂いている歯科クリニックがありま
 す。知り合いの歯科クリニックさんの紹介で、3ヶ月に1回入ら
 せていただいています。
 毎回、院長のお母さまが来られて、鍵を閉めて帰られます。
 その際、必ず院内のタオル・スリッパなど取り替えてあります。
 お母さまも85歳になられ、60歳から25年のお付き合いになり
 ます。いつまでも、息子を思う気持ちで、母心の気持ちは変
 わらないのでしょう。私も必ず、スタッフが作業に入っている時、
 お会いして、お話をするのが楽しみになっています。
 いつも思うのですが、子供を思う親の気持ち・・・これが、日本
 人の文化をつくりあげたのだなと思います。
 そして、家族・商売のありかたに繋がっているのです。
 いくら、世の中が変わっても、このことを忘れたら日本人の
 大事な「おもてなしの心」を失うのです。
 3ヶ月に1回お会いすることで、いつもこの部分に気付かされま
 す。そして、掃除が終わった後、スタッフが
 自宅まで送ります。車の中の会話でも、
 日本人らしさの学びを頂いています。
 お母さまいつまでもお元気でい
 下さい。
 ...いつもありがとうございます...



道経一体と三方よしの経営

日本語の利益という言葉には、ほかに儲け、利、利潤、富などの同類語があります。例えば話し言葉としてよく使われている、「儲け」という和語は、一般に「信」と「者」とを合成したもので、「儲ける」とは“信者をつくる”ことだといわれています。

しかし正しくは、儲けは“ちょ”ということで、その語源は“貯=たくわえる”にあります。現在の経営用語では、いわゆる儲けとは利益のことを意味していますが、儲けとは本来貯えるということから、「儲君（ちよくん=世継ぎの君）すなわち“あとつぎにそなえる人”というように使われ、それには永續するための貯えという本質的な意味があります。

ドラッカーは、従来の経理上で吸われていた利益は幻影であって、そのような利益はこの世には存在していない、と強調しています。なぜなら、「来年のための種子を食べてしまう農民に対しては、だれも非難する。しかしわれわれは、企業に対して非難しない。これは主として、「利益」という言葉のためである。農民にとって、種子は一種の余剰である。

しかし種子が「利益」でないことは誰もが認めている。しかし企業の経営を含め、だれも、営業報告書に記載された利益が「利益」でないことを知らない。それは種子なのである。それはまだ支払われないものの、事業継続のための費用である。従来の利益とは投資した者に対する褒賞であり、報酬であると教えられてきたが、これはたいへんな間違いである、というのです。

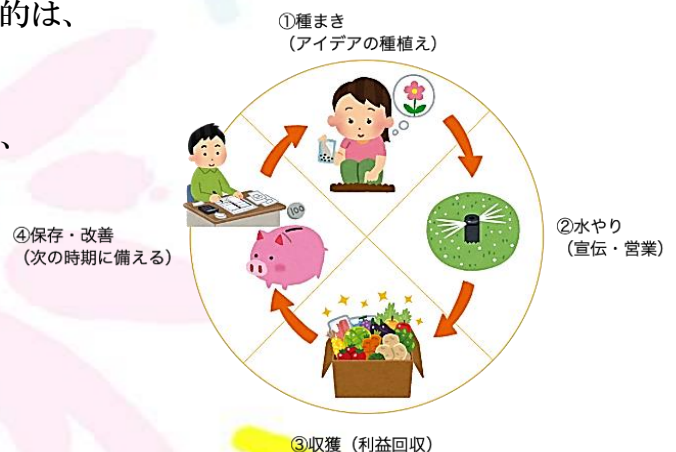
そして利益とは余剰ではあるが、来年の収穫のための種子であって、それは事業継続のための費用であると強調しています。

「金を儲けるということ、富をなして子孫に伝えるということは大いにその原理を異にす。金を儲ける方法は泥棒をしても賄賂を取っても相場をしてもできれど、それはみな永く続かぬのであります。今この天地の法則に合する行ないをして事業をなせば、金も儲かり、かつその金が子孫にまで続いて真の富を致し得るのであります。

さて、従来のような、「事業の目的は利益である」という考え方はいささかおかしいということにお気づきかと思えます。なぜなら、例えば米づくりの目的は、今年よりよい収穫そのものにあるはずで

す。より多く種子を取ることが目的ではないはずで

す。しかし来年度以降のためには余剰分の収穫がなければ、来年には蒔く種子がなくなり、米づくりの事業は失敗に終わり、人間の生命も維持することができなくなります。したがって事業の目的は人間生活の維持、発展のためにあり、利益は本年度の種子として貯えられる未来費用の性格をもったものであることが自然の理法といえます。



◆利益の“質”の吟味を◆

米づくり（企業経営）を存続、維持、発展させるためには、まず第一に来年に蒔く種子（利益）は絶対に確保しなければなりません。そのためには収穫目標（利益目標）を設定し、経営の成績を測定することが必要です。

次は、長期的視点に立って売れる米づくり（競争市場における地位の確保）をするために、長期的な利益目標を設定し、常に経営努力の有効性と収益性を判定しなければなりません。

次に利益を発生原因別に分類してみると、一般に多くの経営者は利益に関して

「どれだけ儲けたか」という金額の多寡に関心を払いますが、その利益が「どうして作り出されたか」という質的な側面からの評価はしないようです。しかし、長期的な安定利益計画が策定され実現されるためには、この利益の質的な違いを認識したた企業努力が必要不可欠です。

